

## 令和6年度 学校評価アンケートの分析

### 質問1 学校生活満足度

- ・学校生活の充実度について、昨年に引き続き、生徒、保護者、教員ともに約9割が肯定的な回答を寄せており、学校生活の満足度が高いことが明確に読み取れる。
- ・ただし、少数ではあるが昨年と同様、1割程度の生徒と保護者が満たされていないと回答している。これらの生徒や保護者に内在する原因に手を差し伸べ寄り添う温かさが求められている。

### 質問2・3 学習指導

- ・授業方法の工夫については、すべての教員が工夫していると肯定的な回答をしている。一方、生徒の2割程度が否定的な回答を寄せている点が課題として浮き彫りになる。この両者の数値が、高いレベルで合致していくことが、今後、本校に最も求められる方向性である。
- ・保護者は「わからない」の回答が昨年から減少を見せたものの、今後一層、授業公開などを通して関心を高め、年2回の生徒による「授業評価アンケート」の結果等を周知する必要がある。
- ・授業への積極的な取組に関しては、教員の8割弱の肯定的な回答に反し、9割強の生徒が積極的に授業に取り組んでいると回答している。教員は、この意欲を前向きに捉え、生徒の積極性をさらに引き出す創意工夫に努めていかねばならない。

### 質問4 一人1台端末

- ・今回、新たに設定した項目である。生徒は、7割余り、教員は8割弱の肯定的な回答が示されてはいるものの、否定的な回答が両者とも3割弱存在していることは看過できない。一人が1台ずつ端末を持つことの意義を再確認し、最大の効果を引き出すことができるよう、学校全体で指導の在り方を協議し、早急に改善していく必要がある。

### 質問5・6・7・8 生活指導

- ・学校が行っている生活指導の適切さについて、生徒は昨年度から肯定的な回答がやや上昇している。保護者も肯定的な回答が増加しており、年々、学校の指導方針に信頼が寄せられてきていると判断できる。教員も、8割の肯定的な回答があり安定感が見られる。ただし、見逃してはならないのは教員の2割の否定的な回答であり、学校としての適切な生活指導の在り方について統一した方向性を再確認すべき時期に来ていることも現実として捉えなくてはならない。
- ・時間の管理については、生徒は非常に高い肯定的な回答をしている。反面、教員は生徒の実態に改善の余地があると評価しており、両者に乖離が見られる。時間の有効活用は、社会人として求められる資質であり、教員は生徒に改善点を分かりやすく指導していく必要がある。
- ・通学のマナーについては、今回、新たに設定した項目である。生徒の9割超の肯定的な回答に対し、教員の5割余りの肯定的な回答との間の乖離が顕著である。駅でのマナーや登下校時の様子に対する近隣からいただく苦情の数々を、その都度生徒に周知し、自戒の念を持たせる指導が必要である。自転車のヘルメットについては、完全ではないものの、自分の命を守る大切さを自覚した行動が徐々に浸透してきていると判断できる。
- ・挨拶の励行については、今回、新たに設定した項目である。生徒も教員も、非常に高いレベルで肯定的な回答が合致しており、集団の一員としての自覚が育まれている状況であることが理解できる。ただし、保護者の肯定的な回答が7割余りと低調であることが課題である。このことは、時折、来校する際の生徒の反応から、学校の挨拶指導にさらなる期待を寄せているものと受け取ることができる。

### 質問9・10 学校行事

- ・学校行事については、生徒、保護者、教員ともに高いレベルで肯定的な回答が見られる。バリエーション豊かな学校行事を通して、人間的な成長やコミュニケーション能力を高めていこうとする本校の長年の積み重ねが、充実度として顕在化してきている証であることに相違ない。
- ・高い肯定感が寄せられる学校行事であるからこそ、参加意欲にとっても高い肯定的な回答が示さ

れている。今後、集団の一員としての自覚の涵養を学校への帰属意識の高まりへと昇華させていく道筋を今一度見直していくことが求められる。

#### 質問 11 地域との連携

・ボランティア活動や府中けやきの森学園との交流活動等について、生徒、保護者、教員ともに高いレベルで肯定的な回答が見られる。特に、教員は9割超の認知を示しており、生徒会執行部を中心としたボランティア活動に一般生徒も巻き込み活動を展開していることを高く評価している。それらの活動をホームページ等の活用により情報発信することで、さらに風通しの良い学校へ発展していくことは間違いない。

#### 質問 12・13 部活動

・部活動は、生徒と教員は高いレベルで肯定的に捉えている。特に、教員は、非常に高い数値を示し、意欲的に部活動を指導していると回答しており、その下支えがあってこそその生徒の回答と受け取られる。しかし、保護者の回答は、前回より前進してはいるものの、「わからない」の回答が約2割と多く、部活動での生徒の様子を部活動単位での保護者会やホームページなどで十分な理解を深めていただく姿勢が求められている。

・生徒も教員も、部活動を通して学校生活を豊かにしていると高い肯定的な回答をしている。本校の特色である部活動と学校行事が生徒の主体性を高め、ひいては学習活動の活性化にさらなる影響を及ぼし、日常のたゆまぬ努力の継続こそが将来への大きな財産になることを自覚させる契機として学校生活を捉えさせていくことが求められている。

#### 質問 14 進路指導

・教員は、進路に関する情報の提供や進路指導を100%実施していると回答している。その傾向を受け、生徒の約9割が肯定的な評価を寄せている。保護者の回答も、年々肯定的な回答が増加傾向にある。今後も、進路保障の一環として学年相応の段階に応じた進路行事や三者面談の実施など、より丁寧な情報の提供が求められる。

#### 質問 15 進学指導

・生徒も教員も、補習や夏期講習を通して進学指導が実施されていると高い肯定的な回答をしている。この数値が、本校の近年の進路実績や進学実績の向上に直結していることは疑う余地もない。

#### 質問 16 校内美化

・ゴミの分別や持ち帰り、教室の清掃や校内の環境美化については、生徒は9割余りが肯定的な回答をしている。教員は、昨年から肯定的な回答が1割減少している。新しい校舎の快適な環境を維持していく上からも、教員は生徒にさらなる環境保全の意識の向上について、具体的な指導を展開していくことが求められている。

#### 質問 17 施設の整備

・教室、特別教室、体育施設等が学習や生活がしやすいように整備されているかについては、生徒、教員ともに非常に高い肯定的な回答をしている。保護者は「わからない」の回答が多いものの、授業公開や文化祭などを通して、本校の整備された環境について関心が高まっていくよう工夫していく必要がある。

#### 質問 18 保健・安全の指導

・保健だよりやセーフティ教室等を通じた健康や安全に関わる指導は、定期的な機関誌の発行や学期末の有効活用により、生徒、保護者、教員ともに非常に高い肯定的な回答を得ている。この実態をさらに高めていくためにも、今後も引き続き、多面的な指導を展開していく必要がある。

### 質問 19 生命尊重の指導

・学校が総力を挙げ、教員が、生命の重さや人と人との関わりの大切さについて適切に指導していることにより、生徒も9割以上の肯定的な回答を寄せている。このことは、青年期を生きる生徒にとって、命の大切さは何物にも代えがたい事実であることを直視することにより、軽率な行動を厳に慎む姿勢の涵養につながっていると判断できる。年3回のいじめ防止アンケートの実施や、生徒のサインを見逃さない教員研修などを引き続き実効性のある内容にしていく必要がある。

### 質問 20 悩みへの相談

・生徒が抱える様々な悩みへの対応は、二者面談の実施やスクールカウンセラーの全員面接などにより、生徒も教員も肯定的な意見が昨年を顕著に上回った。ただし、保護者の5割余りが不明もしくは否定的な回答を寄せていることから、本校に入学後の早期且つ3年間を見越した定期的な3者面談の実施や、スクールカウンセラーの保護者面接などをさらに充実させ、実践していくことが求められている。

### 質問 21 体罰防止

・体罰防止についての積極的な取組については、教員全員が肯定的であるものの、生徒の1割余りが否定的な回答をしている。保護者は「わからない」の回答が多く、年2回の体罰調査の実施や体罰・暴言根絶に向けた取組を広く伝えていく必要がある。この項目に関しては、生徒も保護者も教員も、100%の肯定的な回答が求められている。改善すべき点については、早急に対処していかななくてはならない。

### 質問 22 ホームページの充実

・ホームページにおける本校の情報発信やPRについては、生徒と保護者は昨年同様、高い肯定的な回答であった。特に、教員の割合が増加した点が顕著である。更新回数増加や「府中東高日記」などの更新による学校の働きかけにより、ホームページへの関心の高まりが顕在化してきている証である。

### 質問 23 ライフワークバランス（働き方改革）

・部活動を外部指導員に依頼するなど、時代の流れに即した教員の働き方の在り方について、昨年に続き生徒の9割が肯定的な回答を寄せている。保護者の回答は、昨年から後退しているが、本校の教員の献身的な働き方について再考を促しているものと考えられる。教員は、学校での働き方の改善へのアプローチにより、昨年より肯定的な回答が増加している。学校は、教員にとっての働き方に対する意識を最大限に尊重し、効率的で実効性のある方策を展開していくことが求められている。

### 質問 24 入学満足度

・生徒は、昨年同様、8割余りの肯定的な回答を得ている。保護者は、昨年より明らかに肯定的な回答が増加している。教員は、昨年同様、9割の肯定的な回答を得ている。課題としては、生徒、保護者、教員の3者の否定的回答の原因がどこにあるのかを問うことである。希望をもって日々、活動を展開する生徒にとって、卒業時に「本校を選んで正解だった」と振り返ることができる学校生活の充実に向け、3者が一体となりさらなる満足度の向上を目指し、中長期的に課題の克服に取り組んでいくことが、最も求められている。